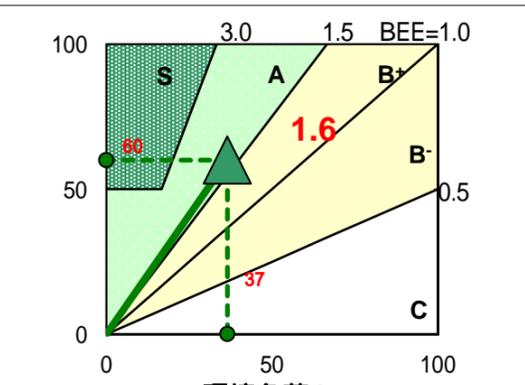




1-1 建物概要			1-2 外観		
建物名称	個人住宅		仕様等の確定状況	建物の仕様 持ち込み家電等 外構の仕様	確定 確定 確定
竣工年月	2019年9月	竣工	<備考> 外構は植栽が未定の段階での評価		
建設地	横浜市横浜区鶴見区下末吉一丁目1032番5、1032番4				
用途地域	一種住居地域	確定			
省エネルギー地域区分	6地域				
構造・構法	鉄骨造	確定			
階数	2		評価の実施日	2020年2月10日	
敷地面積	214 m ²	確定	作成者	小幡 勤	
建築面積	87 m ²	確定	確認日	2020年2月11日	
延床面積	154 m ²	確定	確認者	長沼 豊	
世帯人数	4	確定			

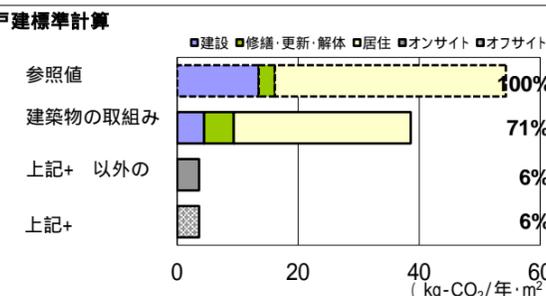
2-1 戸建の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.6



環境負荷 L

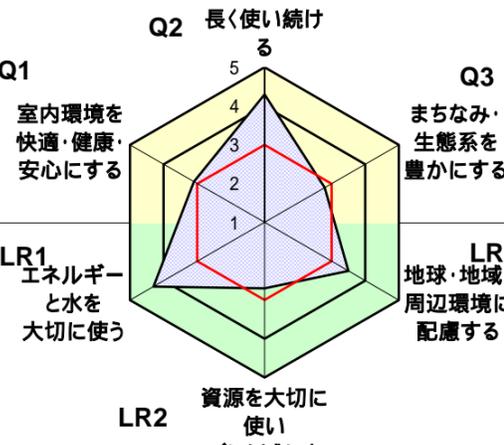
2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)



戸建標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な住宅（参照値）と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

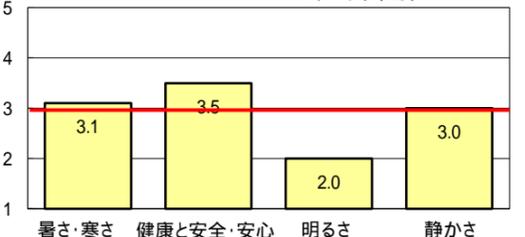


2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.3

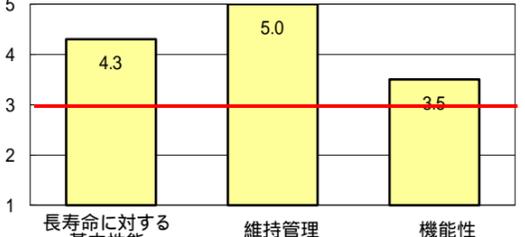
Q1 室内環境を快適・健康・安心にする

Q1のスコア = 3.1



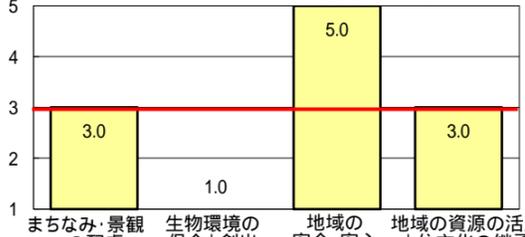
Q2 長く使い続ける

Q2のスコア = 4.3



Q3 まちなみ・生態系を豊かにする

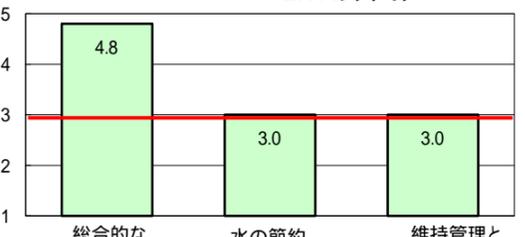
Q3のスコア = 2.8



LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギーと水を大切に使う

LR1のスコア = 4.3



LR2 資源を大切に使いゴミを減らす

LR2のスコア = 2.7



LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する

LR3のスコア = 3.5



3 設計上の配慮事項

総合	その他	
○長くお住まい頂くための性能を持たせ、さらに維持管理を行う環境を整えた ○周囲の建物に調和する外観とした ○大容量の太陽光発電の採用や、CO2ヒートポンプ式給湯器を採用し、エネルギー消費量を抑える設計として温暖化への配慮を行った		
Q1 室内環境を快適・健康・安心にする ○強化外皮採用 ○通風を考慮 ○特定建材は全てF	Q2 長く使い続ける ○構造耐力上主要な部分に用いる鋼材の防錆仕様は溶融亜鉛メッキを採用 ○屋根材はSUS製を採用	Q3 まちなみ・生態系を豊かにする ○幹線道路からは1本外れている住宅街にあるため厚重感のあるイメージの外壁を採用
LR1 エネルギーと水を大切に使う ○太陽光発電10.08KW ○照明はLED ○CO2ヒートポンプを採用	LR2 資源を大切に使いゴミを減らす ○省資源に役立つ材料を採用	LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する ○省エネにより地球環境を考慮した



4 横浜市重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号()を示し記述してください。

建物名称 個人住宅

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) 【省エネルギー性能】 **5**

省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)

この建物の設計一次エネルギー消費量 58 %削減



一次エネルギー消費量基準 適合

外皮基準 適合

0

受付日 2019年7月5日

誘導基準

エネルギーを大切に使う (建物の工夫 設備の性能 維持管理と運用)

太陽光発電 10.08KW

CO2ヒートポンプ給湯器、LED照明の採用によりエネルギー使用量を削減

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) 【健康・安心】 **5**

室内環境対策 (暑さ・寒さ)

断熱等性能等級 等級4を超える (相当)

室内環境を快適・健康・安心にする (健康と安全・安心)

特定建材はF を採用

その他の対策 (自然材料・通風の工夫など)

工夫の有無 あり

主要な居室は、有効な開口を計画

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) 【防 災】 **5**

災害に備える (災害に備える 長寿命に対する基本性能 地域の安全・安心)

蓄電池電源により自動点灯する照明やコンセント(冷蔵庫含む)を設け生活が続けられる仕組みを設けた

構造耐力上主要な部分に用いる鋼材の防錆仕様は溶融亜鉛メッキ

避難ルートを確保、さらに見通しの良い外構として安心な計画を行った

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) 【地域・まちづくり】 **2**

まちなみ・生態系を豊かにする (まちなみ・景観への配慮 生物環境の創出)

太陽光発電などの導入



太陽光利用

エネルギーマネジメントシステム導入

HEMS

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

蓄電池



CASBEE横浜[戸建] (2017年版)

個人住宅

バージョン : CASBEE横浜[戸建]2017年版v.1.1

スコアシート				
配慮項目	重点項目	評価点	重み係数	全体
QH すまいの環境品質		-	-	3.3
QH1 室内環境を快適・健康・安心にする		-	0.45	3.1
1 暑さ・寒さ		3.1	0.50	3.1
1.1 基本性能		4.8	0.50	-
1.1.1 断熱等性能の確保	健康・安心	5.0	0.80	-
1.1.2 日射の調整機能	健康・安心	4.0	0.20	-
1.2 夏の暑さを防ぐ		2.0	0.25	-
1.2.1 風を取り込み、熱気を逃がす		3.0	0.50	-
1.2.2 適切な冷房計画		1.0	0.50	-
1.3 冬の寒さを防ぐ		1.0	0.25	-
1.3.1 適切な暖房計画		1.0	1.00	-
2 健康と安全・安心		3.5	0.30	3.5
2.1 化学汚染物質の対策	健康・安心	5.0	0.25	-
2.2 適切な換気計画	健康・安心	3.0	0.25	-
2.3 犯罪に備える	健康・安心	1.0	0.25	-
2.4 災害に備える	防災	5.0	0.25	-
3 明るさ		2.0	0.10	2.0
3.1 昼光の利用		2.0	1.00	-
4 静かさ		3.0	0.10	3.0
QH2 長く使い続ける		-	0.30	4.3
1 長寿命に対する基本性能		4.3	0.50	4.3
1.1 躯体	防災	5.0	0.30	-
1.2 外壁材		4.0	0.10	-
1.3 屋根材、陸屋根		3.0	0.10	-
1.4 自然災害に耐える	防災	5.0	0.30	-
1.5 火災に備える		3.3	0.20	-
1.5.1 火災に耐える構造		3.0	0.65	-
1.5.2 火災の早期感知		4.0	0.35	-
2 維持管理		5.0	0.25	5.0
2.1 維持管理のしやすさ		5.0	0.65	-
2.2 維持管理の計画・体制		5.0	0.35	-
3 機能性		3.5	0.25	3.5
3.1 広さと間取り		5.0	0.50	-
3.2 バリアフリー対応		2.0	0.50	-
QH3 まちなみ・生態系を豊かにする		-	0.25	2.8
1 まちなみ・景観への配慮	地域・まちづくり	3.0	0.30	3.0
2 生物環境の創出		1.0	0.30	1.0
2.1 敷地内の緑化	地域・まちづくり	1.0	0.65	-
2.2 生物の生息環境の確保	地域・まちづくり	1.0	0.35	-
3 地域の安全・安心	防災	5.0	0.20	5.0
4 地域の資源の活用と住文化の継承		3.0	0.20	3.0
LRH すまいの環境負荷低減性		-	-	3.5
LRH1 エネルギーと水を大切に使う		-	0.35	4.3
1 総合的な省エネ		4.8	0.75	4.8
1.1 躯体と設備による省エネ	省エネルギー性能	5.0	0.90	-
1.2 家電・厨房機器による省エネ	省エネルギー性能	3.0	0.10	-
2 水の節約		3.0	0.15	3.0
2.1 節水型設備		3.0	0.75	-
2.2 雨水の利用		3.0	0.25	-
3 維持管理と運用の工夫		3.0	0.10	3.0
3.1 住まい方の提示	省エネルギー性能	3.0	0.50	-
3.2 エネルギーの管理と制御	省エネルギー性能	3.0	0.50	-
LRH2 資源を大切に使いゴミを減らす		-	0.35	2.7
1 省資源、廃棄物抑制に役立つ材料の採用		2.6	0.60	2.6
1.1 構造躯体		3.0	0.30	-
1.1.1 木質系住宅		3.0	-	-
1.1.2 鉄骨系住宅		3.0	1.00	-
1.1.3 コンクリート系住宅		3.0	-	-
1.2 地盤補強材・地業・基礎		3.0	0.20	-
1.3 外装材		1.0	0.20	-
1.4 内装材		3.0	0.20	-
1.5 外構材		3.0	0.10	-
2 生産・施工段階における廃棄物削減		3.0	0.30	3.0
2.1 生産段階(構造躯体用部材)		3.0	0.33	-
2.2 生産段階(構造躯体用以外の部材)		3.0	0.33	-
2.3 施工段階		3.0	0.33	-
3 リサイクルの促進		3.0	0.10	3.0
3.1 使用材料の情報提供		3.0	1.00	-
LRH3 地球・地域・周辺環境に配慮する		-	0.30	3.5
1 地球温暖化への配慮		5.0	0.33	5.0
2 地域環境への配慮		2.5	0.33	2.5
2.1 地域インフラの負荷抑制		2.0	0.50	-
2.2 既存の自然環境の保全		3.0	0.50	-
3 周辺環境への配慮		3.0	0.33	3.0
3.1 騒音・振動・排気・排熱の低減		3.0	0.50	-
3.2 周辺温熱環境の改善		3.0	0.50	-